

令和 6 年度第 1 回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 議事録

日時：令和 6 年 11 月 15 日（金）13:00～15:00

場所：府中市役所 4 階第一委員会室

会議要録	
次 第	1. 開会 ○市長挨拶 2. 議事 (1) 第 2 期府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について ○人口ビジョンについて ○基本戦略 1 について ○基本戦略 2 について ○基本戦略 3 について ○基本戦略 4 について ○基本戦略 5 について 3. 閉会 ○副市長挨拶
○市長挨拶	みなさん、こんにちは。 令和 6 年度第 1 回府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議の開催にあたり、一言御挨拶を申し上げます。 皆様方には、お忙しい中、府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。 この「総合戦略」は、令和 2 年 6 月に策定した「第 5 次府中市総合計画」のアクションプラン的な意味合いで、令和 3 年 3 月に策定しております。 思いおこせば、令和 2 年 6 月といえば国内でのコロナ感染が広がり始めたときです。令和 3 年 3 月はいわゆる「コロナ禍」の入口を通過し、今後の先行きもよく見えない中で「密を防ぐ」という観点から、あらゆる分野での DX 推進、マイクロツーリズムなど密にならない日帰りの観光、移住促進、感染防止にとどまらない健康管理、人流が制限されたことによる地域コミュニティの重要性の高まりなどがテーマとなっており、現「総合戦略」にも、それらのテーマは色濃く反映されています。 しかし、当時アフターコロナと呼ばれた現在はどうでしょうか。あらゆる分野での DX は推進しましたが、コロナ禍における移動制限のフラストレーションは、マイクロツーリズムではなく著名な観光地に人々を押し寄せさせ、コロナ禍明け以降の円安の風を受けたインバウンドの波によりさらに混雑を招いています。 本日の検証にあたっては、策定当時の状況を考慮しつつ、現在の府中市にどのような事業効果を与えているのか、また見直すべき点は何か、といったことを中心に御議論をいただきたいと考えております。 皆様にはそれぞれの知見からの御意見をいただき、今後の施策の見直しに反映させてまいりたい

	と思いますので、忌憚なき御意見をいただきますようお願いして、私の挨拶とさせていただきます。
○岡村委員 挨拶	(省略)
○議長（渡邊 委員）挨拶	改めまして、皆さんこんにちは。福山市立大学の渡邊です。よろしくお願いします。 今日は、第 2 期の府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証ということで集まっています。評価・検証ということですので、良し悪しを判断していただき、検証していただくということになります。さすがに事務局の方もしっかりとフォローアップをしてくださっていますので、善し悪しは大体判断がついているのですが、多分一番困っているのは、正直なかなかなかうまくいってない事業があることだと思います。 そういった事業に対して、全然僕はジャストアイデアでも良いと思いますので、比較的ポジティブに評価というよりはこうすればもう少しうまくいくのではないかという感じで、いろいろと示唆をいただけると、事務局としても非常に良いのではないかと思います。 それが果たしてうまくいくのかどうかは、行政の内部でいろいろと事情がありますので、必ずしも採択されるかどうか分からないのですが、今日も忌憚のない意見をたくさんいただければと思います。
議 事 （ 1 ） 第 2 期府中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について	
○人口ビジョンについて	
事務局	(説明は省略)
渡邊議長 (大学)	このような厳しいと言えば厳しい状況ですが、やはり人口が減ると国からの地方交付金が減ります。当然のことながら、生産年齢人口と呼ばれている 15 歳から 60 歳が減ると税金を納めてくれる人が減ることになりますので、そういった意味では厳しい状況であるかと思います。厳しい中でもどういうふうに頑張っていくのかというところがポイントだと思います。厳しいと言っているとネガティブなので、そんな中でもどうすれば良いのかというところを皆さんと考えながら、評価もしつつ、提案ができればというふうに思っていますので、よろしくお願いします。
○基本戦略 1	
事務局	(説明は省略)
石川委員 (商工)	今説明があったようにうまくいっているものと遅延しているものがありますが、その遅延の理由としては先ほど冒頭にあったコロナという通常でない環境があったため、以前と比べて直接的な活動ができない、できなかったということがあったかと思います。 また逆にそれがチャンスで、DX が一部進んだことも反対にはあるのだらうと思います。 ただ人口ビジョンの中で説明された人口減少もそうなのですが、高齢化が進んでいるということで DX と言わずともデジタル化になじみの薄い年代の人が増えているということもあり、なおさらキャッシュレスみたいな商売がなかなか進まなかったということがあると思います。 もう 1 点産業全体、支援の方からいうと、支援団体は当所以外にも金融機関の方もおられますし、国、県、市、いろんな形で支援もあります。行政として我々と連携というのはあるのですが、事業者に対してどう関わっていくかという部分が少し弱いのではというのがあります。コロナ明けからまだ 5 年ですと、その最初の年ということもあるので、これからもう少し支援機関同士の連携、DX をしていくにしてもものづくりのまちづくり、産業発展させるという意味からも支援機関同士がそれぞれ情報交換しながら、やっていくべきだと思います。それぞれの事業によって課題もまちまちで

	すし、お互いのアプローチもバラバラでやっている状況があると思います。どこが音頭をとるかということはあるのですが、そのあたりの連携も今後課題であると感じております。
沖田委員 (金融)	銀行は会社のお金を運用したり、貸し出しをするというだけではなく、ITでDX化をしたり、人事、人材の課題関係について、別会社を作って総合的な企業に対するコンサルティングという形でも接しています。やはりその人事とかDXは相当ニーズが高いです。組織の問題、人手不足の問題、必ず出てくる問題ですし、どこへ行ってもDXの話が必ず出てくるのですがなかなか進みづらいというのはあります。先ほどありましたがとっつきにくいところがあって、やっとう手につき始めたかという時期じゃないかというふうには考えております。 先ほどありましたように、どこが音頭と言いますか、我々もそういう活動をしっかりこれからも進めていくつもりですし、ここが行政との連携もあると一気に広がるのではないかというふうに思っておりますので、引き続き一緒になってさせていただければと考えております。
岡村委員 (組合)	府中市は大きな会社は何社かあって、小さい会社がたくさんある中で先ほど市と企業との連携という話があったように、ある程度の規模の会社が小さい会社に何か働きかけられるようなことがあれば良いと思っています。 それは何かというと、ものづくり。つまり安全作業みたいなところで、弊社でももっと大きな会社から指導を受けたりもするので、我々が持っているノウハウでもものづくりの中で共通なものはやはり安全とか法律の遵守等であると思います。そういうところで支援ができるようなことがあれば良いと思います。府中市として安全・ものづくりという感じで、安全ゼロ災の町という感じで、PRできるのではないかと思います。 個人的に昨日広島県の安全衛生大会があったのですが、今は安全の教育はほとんどVRになっています。 そういったところもDXかどうか分かりませんが、取り入れるメリットはあるかと思っています。
渡邊議長 (大学)	今のアイデアというか意見はそうだと思います。いきなりDXに取りかかろうとかデジタル化に取りかかるとなると、そもそもなんだという話になるので、ものづくりの安全、今やっている仕事の中でDXがどう使われているのかとか、当然大きな規模の会社の方がそういうことは長けていますし、逆にフクビズとかびんご産業支援コーディネーターとか産業関係室等、いろんなところが情報を持っていると思います。意見交換のテーマをデジタル化とかDXにするのではなく、まずは安全管理等、そういうテーマの中でDXなどを使えば、当然DXは道具であり、道具の話をすると難しいので、本質的な話があって、それをその道具でどう解決するのかというふうに展開していく方が良いと今お三方の話を聞いて私は思いました。
○基本戦略2	
事務局	(説明は省略)
吉原委員 (保育)	ここには出ていないのですが、順調にいろんな支援ができている市だと思っています。 ただ本当に一人一人個々に目を向けると、そこにはいつも寄り添い、本当に小さな積み重ねがないと安心して子育てができるということには繋がっていかないので、いろいろな支援をこんなふうに使って下さいというふうにPRすることが大事だと思います。子育てがしやすいとは、現実的には本当に小さなことだったりしますよね。もちろんお金も助かります。物資も助かります。いろんな預けるところがあるとかでももちろん助かるのですが、その中に子どもと関われる時間が取れ、子育てに喜

	びを見いだせることが大切です。早急な発熱のときには、企業でうちの職場でも困るのですが熱が出たとき、けがをしたときには一緒に親子でいたいという気持ちはそういうシステムがあるので、使ったら良いではないかでは済まされないとあります。その数値は結果には見えてこないところなので、そこについて府中市はしっかりと確認しながら取り組みば、市民の充実感が高まって本当に素晴らしい施策をしてきているというふうに思えます。いろんなことを一生懸命担当の方が頑張ってくださって、全部目に見えるように結果が出ていると思います。私は現場にいるのでいろんなことがわかるのですが、反対に離れている方が何をやっているのかが分からないとか、これは一体何だというのがあれば、そういう声も聞かせていただければと思います。
石川委員 (商工)	子育てしやすい、しやすいというテーマで皆さん言っているのですが、何のために子育てしやすい必要性があるかというのがあると思います。 例えば働くためにはこういう子育てしやすい環境が必要であるとか、例えば夫婦 2 人でおじいちゃんとおばあちゃんに対していろんな協力をしながら子育てができていたのが、2 人だとなかなか大変だからそういう家庭にとって子育てしやすい目標を定めているのか。子育てしやすいとは、皆さん言葉としてはきれいで良い言葉なのですが、そのターゲットがどこに行っているのかというのが曖昧だという気がします。これは質問なのですが、この施策は子育てしやすいさを求めて KPI を出されているのですが、本来の目的は人口の上ぶれに持っていきたいといけなくないですね。 人口の上ぶれで持っていこうと思うと、そこで生活ができる環境を作らないといけません。その生活できる環境というのが一定の収入があって一定の生活ができるということであれば、そこへ向かった子育て支援がメインになるというのがより明確になるのではないかと思います。だから今それぞれがどう子育てのしやすさを求めているのかというのが、もっと明確にした方が良かったのではという気がしたところです。
渡邊議長 (大学)	個人的には子育てにみんなが関心を持つことが大事だと思っています。先ほどの「寄り添い」が大切だという言葉もありましたし、各地域でコミュニティスクールを積極的にやられているのはやはり地域が学校に対して関心を持つということだと思います。そういった意味ではやはり市民の皆さんの関心度の高い、低いも子育てしやすい町に繋がるのではないかと最近思っています。そういう意味では、市民の方々が子育てに対して関心を持つ、子育てが終わったらあとは知らないというのではなく、何かそこが大事なのではないかと思います。
小林委員 (PTA)	今言われた子育てはここでも出ていますが、年齢は小さい子を中心に据えていると思います。実際には中学生、高校生も育てているという段階で塾の送迎等、縛られることもあるのですが府中市は何か不便なところも多く、公共機関にしても子どもが自分で行きにくい、その場所に行けないということで親が出ていくというのがあります。結局、子どもも都会に出てしまい、府中から離れるという負の感じになっていると思います。子育ての枠をとっても小さい子ばかりに限られすぎており、だんだん大きくなると本当に交流がなくなるため、本当に悩んでいる人もたくさんいると思います。 そのようなところを何かといってアイデアはないのですが、焦点を置いて欲しいというところがあります。
渡邊議長 (大学)	よく 18 歳まで医療費無料とかいろいろ言っていますが、そういった意味では中高生も僕は大事だと思っています。今日の資料の中でも、2-1 の一番最後で上下高校の魅力化の話があります。天領あやめ塾はあまり上手くいっていないという話があるみたいですが、これは少しアプローチ

	を変えたほうが良いのではないかと考えています。今高校が総合探求という総合的な探求の時間を持っていますので、まずは上下町の地域課題とは何なのだろうか、それを解決するには何ができるのだろうかと始めると、そもそも上下は天領でという話から始めますよ。天領とは何みたいなところから学びがスタートし、歴史的にすごいところなので天領あやめ塾に行くということであれば、僕はすんなり入っていける気がします。いきなり天領あやめ塾は子どもたちにとってはハードルが高い気がするのでステップアップしていくような、そういう取組が必要だと思います。ステップアップの中では、年齢的なものもありますので、そういうことも考えながら取り組めば良いと私は思います。
高橋委員 (観光)	私が思う子育て、育てるという意味においては、府中市は行政を中心に子育てできる環境がある程度整っているような気がします。 行政を中心に保育所、小中学校、高校といろんな意味で子育ては整っているような気がするのですが、ただ安心して出産ができるかということここにクエスションがつくところですよ。なかなか妊婦さんにとっては不安な状況が多々あるような話も聞きますので、そうしたところが今後大きな課題になると1点思います。 それから教育のトップランナーの取組なのですが、府中市の教育は先進的な取組をいろいろしています。小中一貫校、義務教育にしかり、それからCSも各学校を母体として、地域の方たちが非常に前向きにこれも子育ての一環だと思うのですが、取り組んでいただいています。そういったところが府中市にいと見えなく、気がつきません。保護者の方でも府中市から近隣の市町へ出られた方から見ると、府中市で教育を受けてよかったという声をいろいろ聞きます。もう少し府中市の教育の特徴、ここを一番重視して府中市の教育を進めているという打ち出しをしていくと、大きな夢にはなるかもしれませんが、ひいては転入促進にも繋がり、いわゆる教育、移住に繋がっていくのではないかと気がします。いろんな良いことはやっているの、府中市の教育はここを重点的にやっているというところをしっかりと打ち出してPRしていくと、もっといろんな保護者の方に届くのではないかと思います。府中市に移住してでも、府中市の教育を子どもに受けさせようかという希望に繋がっていくのではないかと思います。 そうしたところ2点が個人的には課題かと思っています。
糸永委員 (報道)	今の話は子育てというところですが、いろんな行政の方と話をすることがあり、子育てまでたどり着かない、その前の悩みもとても大きいというような話があります。もしかしたら皆さん知っていたり、こちらでもされているか確認もせずに申し上げるのですが、三原市の方ではラインで妊活だったりとか、今自分が困っていることとか、例えば月経のトラブルであったり、また生まれてからのネウボウに繋がるような相談をLINEでできます。何でもかんでもSNSということではなく、その大きな1つの目的は孤独の解消ということにあると言っていたのがとても心に残っています。これからという人たちを応援していますよというそういう目線が1つ、もしかしたら子育てに繋がっていると思ったので、ここで紹介させていただきました。
渡邊議長 (大学)	だんだん広がってきて良いですね。多分、子育てだけを考えると狭くなるのでそういった意味では学年はもっと広げた方が良いのではないかと、出産の前の幅広い観点での孤独の解消という言葉もありますが、そういう観点から考える方が良いと個人的にも思いました。
吉原委員 (保育)	私も今お聞きして、孤独の面は高校生も同じではないかと考えています。中学校まで小中はCSがあり、地域とも繋がっていますが、高校生になると急に本人も広がって動いてしまいます。その中

	でも毎日何を自分は目指して勉強を頑張っているのか、何をこれからどうしようと思っているのか、少し不安な時期であると思います。そんな中で企業や高校同士等、そういう交流というのが、将来のそれこそ若者に魅力のある職場を紹介することに繋がったり、府中市を盛り上げていくことに繋がったりというの何か考えたいと思います。1 つの例なのですが、先日子どもが全国規模の高校生がいろんな地域の課題とか研究したものを持ち寄って発表するというのがありました。たまたまそこで近大付属と福山の学校の 2 校が出会い、東京に行ってそこで交流が生まれて、地域のことをいろいろと何か話すきっかけになったという面白い現象が起こっています。その中で上下だけで高校生が頑張っていますが、府中のみんなで何かその点であやめ塾もだし、翁座もだし、何か素敵な文化があるものをどうやってみんなで盛り上げていこうか、楽しんでいこうかということを府中市内の高校生がチーム作って取り組んでも楽しいのではないかと思います。そこが将来は魅力ある職業、府中市でこんな職業があるというのを見つけてくださることにもなるし、住みたいと思うことにもなるし、それこそ質の高い教育というものに繋がりますので、高校生の何かこう輝く場があったら楽しいだろうと思います。
石川委員 (商工)	今吉原委員が言われた高校にも CS は当然あって、現に府中市内に 3 校ありますが 3 校とも CS 活動をされています。なおかつ、そこへ事業主の方が出向いてこういう経験をしたという話をされています。今回言われた通り、地域が広がってしまうので小中学校の CS とは若干立ち位置が変わってくるのだらうとは思いますが、そんな中でもそこに学校があることによって、ない地域とは違い、地域の方が社会とは違う関わりで CS 活動をしています。その辺りはどうしても小中学校が先行して多分 CS がスタートしたと思いますので、そのあと地域にいいよ高校がスタートしたということがあって、小中学校に比べると地域との関わりが薄いのも事実ではありますが、産業との関わりというのは、逆に強く連携を取っていると状況もあるというのは言っておきたいです。そこで頑張られている方もたくさんおられるので、そういうこともあって地域の産業も再度地域の企業へ就職をしていただくきっかけにもなっているのではないかと思います。
小川委員 (農業)	今上下町の話が出ましたので、一言。私の娘が現在上下高校に在学しており、あやめ塾の話等、いろいろ子ども経由で何うことが多いのですが、上下町は辺鄙な場所にある高校で雪も降るし、スタッドレスがないと上がれないようなところで保護者の方の送迎なんて持つてのほかという雪のないエリアの方からの意見だと思います。そういうところだからこそ、地域の方が向けている目の量は多く、高校生に熱い視線が向けられているのですが、受け身になってしまっているのが今の上下高校の生徒だと思います。だから、自分で大きな企業でなくて良いのですよ。大きな企業を作る、もしくは就職するというのが目的なのも良いかもしれないのですが、高校生社長にみんながなれば良いような学校になると良いのではないのでしょうか。高校生の在学中に社長になりました、こういう会社を立ち上げてそのスタッフが 1 人、2 人でも何でも良いのですが、山の中だからこそやりたい放題できるような環境を有意義に使えるそういうサポートというか、そういう方面の CS も含めた動きの方が受け身になってしまっているのがありがたいです。ではこれしたい、あれしたいというのはなかなか思いつかないところですが、愛をたくさんもらっているのもう幸せですありがたいという言葉しか出なくなってしまう。そういう高校生社長をつくれるような学校等、面白いのではないかと田舎だからこそ思います。
渡邊議長	そういう意味では CS の第 2 ステップという段階なのかと感じました。

(大学)	実は昨日広島に行っておりまして、国土計画の広域地方計画を作っているのですが、その会議に出たときに似たような話が出てきました。やはり中山間地域は、不便で条件は不利なのですが、逆にいうと条件が不利だから簡単に動けるとかそういうところはありませんし、条件悪いが、やることは結構あるとか時間があるとか面白い人がいるとか、なんかそういうのがあるそうなので、どういふに自分たちの強みを生かしていくのかというところは考えていく必要があります。そこはやはり高校だけで考えなさいというしんどいので、地域であることを考えるという、そういった CS の取組になっていると良いのではというふうに話を聞かせていただいています。
○基本戦略 3	
事務局	(説明は省略)
岡村委員 (組合)	スポーツで魅力発信の中の令和 5 年の実績で、公共施設利用者数が格段に上がっているのは、何か理由がありますか。令和 5 年が 24 万人、令和 4 年で 15 万人ぐらいになっていますよね。
小川委員 (農業)	上下運動公園の人工芝グラウンドができたからではないでしょうか。
渡邊議長 (大学)	事務局の方が頷いているので、大正解です。
石川委員 (商工)	観光のところで、上下にインバウンドの方がたくさん来られているという報道等もあり、観光に一定の成果が出ているのだと思うのですが、先ほども事務局の方から進めないといけないという話がありましたが、産業化等は収益性がないとどうしても人は定着しないという問題があります。これはスポーツ施設においても同じことがいえるのではないのでしょうか。だからただ単に利用が多だけでなく、収益性がある、あるいは産業化に繋がる施設ができたばかり、これからできるというものですので、そこを特に注意して進めていただきたいと思います。観光について上下は一定程度、例えばひなまつりなどかなりの人が来られて肩があたりというケースもあり、それは素晴らしいことなのですが、そこに産業が根づいていかないと一時のイベントのような形で終わってしまうので寂しい気がしました。 公共交通の問題で、利用者が少なく公共交通が停滞しています。補助金を出して財政支援をずっと続ければ良いのかという問題もありますが、公共交通というのは市内完結型になりますから域内での移動も大切ですし、それから都市間、働くという意味からすると市外から大勢の働く方が入っています。そういう意味では、公共交通むしろ道路も同じだと思うのですが、渋滞ができるだけ緩和されるような形での道路整備というものがいいと思います。バスと電車、うちの場合は福塩線の北線で府中市から三次市の塩町までということになるのですが、利用促進は必ず必要だと思っています。それは観光と連携したものであったり、あるいはあまり利用されていない方々に利用してもらったりとかが必要だと思いますね。特に電車の方は高校生の時代に乗ったりするので、大人になっても乗るということに違和感はないですが、バスは子どもの頃何歳までとは言えませんがその時に乗るという習慣がない、なかなか大人になっても乗らないというふうに聞きました。明郷はスクールバスでバスの乗り降りの指導を以前していました。今しているかどうか分からないのですが、そういう子ども、小さい子どももバスに乗る際に 1 人でも乗れますというような、教育が進んでいけば普通に違和感なく乗ってもらえます。乗ってもらうことによって、その負担が軽減

	されます。そういう循環を作っていかないと、なかなか難しい気がしました。
高橋委員 (観光)	観光に関する件を 3 件ほど、話させていただきます。 まず、先ほど出たインバウンドの件なのですが、上下町には大体欧米系を中心に 1 年に 24、25 回ツアーがやってきています。だからトータルすると、大体 300 人から 400 人ぐらいのツアーが上下町に来ることになります。ただ課題を挙げると滞在時間が限られているため、なかなか周辺で買い物したり、いろんなお店に入ってみたりという時間が取れないわけなので、この辺が 1 つ上下町のインバウンドに関しては課題かと思っています。府中の中心部の方からすると、今までなかなかそのインバウンドツアーというのは来ていないので今開発中です。上下が今欧米系であれば、こちらの方は台湾を含めた東南アジアから挑戦してみようかということで先日モニターツアーをやりました。外国の女性の方ですが、恋しきを中心にワークをして、それからいろんなお香体験や市内のいろんな名所的なところを回っていただいています。これからプロモーションに入る状況です。こういったことをやりながら、令和 7 年度に向けて進めていきたい、アクションを起こしていこうと考えているところです。そうした中でこちらの方はやはり恋しきを核とした周辺整備も含めて、滞在型の観光情勢を作っているところです。こういったことで、恋しき「そ」という料亭部門が今できておりますので、こちらで食事をとっていただく中で周辺を散策していただいたり、また時間がとれる場合は阿字和紙であったり、栗生地区の南宮神社の歴史散策であったり、そういう人とオプションでつながら今後やっていこうと計画しているところです。 もう 1 点キャンプの活用なのですが、現在の府中市内には 3 施設、キャンプ利用ができる場所があり、大体スリーシーズンで冬以外のキャンプ利用の受け入れをしていました。今回、民間指定業者になっていろいろ話をする中で、冬もキャンプをしたいというコアな方がいるのだそうです。だから、そういった方もやはり今後視野に入れながら、冬のキャンプ、四季の里が可能かどうかは時期にもよりますが、そういったところも検討に含めながらいろんなモニター的なことをしたり、いろんな人の意見を聞いたりしながら、オールシーズン活用できるキャンプ場の活用を促進していこうと思います。 もう 1 点付け加えるとワーケーション事業なのですが、四季の里に 1 台、ワーケーション事業ができる設備を整えているのですが、キャンプをする人とワーケーションで仕事をする人が結びつくのかというふうに疑問が生じ始めております。のんびりゆっくりしたい方がそこで仕事をするかといった課題が出てきておりますので、もっと別の場所に移動した方が良いのか、これは検討する余地があるのではないかと思います。
小川委員 (農業)	おかげさまなのかわかりませんが、全国テレビに出させていただいたことをきっかけに牧場で働かせてくださいという方が今年度 8 組おられまして、実際に牧場で働く仕事がないのでお断りしています。定年退職後に牧場のような環境下で生き物と一緒に暮らしたいので、定年退職後の移住を考えているとか、子どもはまだ 1 歳になっていないのですが小さい時から自然に触れる生活をさせたいとか、そういう話がたくさんありました。実際には皆さんが知っているとおり、酪農業界は非常に危機感が出ており、ついに広島県も全体で 86 件になりました。 私が帰ってきたときに、400 件以上あった酪農家さんが今はもうこの人数で、なおかつまた来月も減っていくので、非常に経営としては厳しいです。イメージが分からないのですが、やはりそういう環境下で子育てがしたいとかそういうのが近くにある環境でやりたい、もしくは第 2 の人生をそういう

	ステップアップ、自然に触れながらいきたいという方は結構いるのだなと思いました。遠くは関西からゴールデンウィークに来られていますし、そういうのもあって個人事業なので着手はできていませんが、夢の 1 つとしてクラフトミルクとかあとチーズ工房とかヨーグルト工場とか、そういうのを学校単位、1 学年単位でつくれるような小さな施設が欲しいと思っていました。ずっと貯蓄はしていたのですが、コロナ中に使い切ってしまいました。そういう需要があるので、もしかするとチーズ工房を小さな単位で良いので作ると、それをやりたいという方が県外から結構おられるのだなという感覚があります。農業に従事したい人は多いです。ただ経営者として従事したいという感覚の方ではないので、作業さんというかスタッフさんとして、そういうのんびりとした時間が過ごせるような生活がしたいという方がおられるので、観光も含めてですが、移住も含まれるのが農業のこれからの方向性なのかと思いました。
渡邊議長 (大学)	今の話を聞いて、小さな芽を育てることはとても大事だと思うのですが、なかなかそういうところまでたどり着けないってところがあると思います。そういう意味では、比較的小さな芽をどういうふう育てていくのかという、その丁寧な取組が必要なのかと聞かせていただきました。
高橋委員 (観光)	もう 1 つ追加なのですが、観光協会の産業観光、いわゆる府中市ではものづくりのまちということでいろんな産業が充実していることの PR もしっかりさせてもらっております。今月も沖縄の方から産業界の北川鉄工所の方にお世話になったのですが、そういった産業観光の問い合わせも結構あります。それまでコロナ渦では教育から観光ということで修学旅行を対象にしていたのですが、コロナ明けは産業観光に切り換えており、会社を視察したいあるいはいろんな技術、見られる範囲と見られない範囲はあるのですが、そうした状況を把握したいということも少しずつ増えてきています。現在府中市内で観光協会と 15 社提携させてもらっていますので、こうした要望があった際に受け入れをお願いするというような状況づくりをさせてもらっています。こういったことをも府中市内ではしっかりと進めていき、産業観光の充実をさせていきたいと思っています。
吉原委員 (保育)	先ほど石川委員からもありましたが、上下に人がたくさん来られるといっても産業には繋がっていないというのをいろんな方から聞きます。私たちにはわからず、とても盛り上がっていると思っていましたが、実際に住んでいる方にとって課題が大きいというのを最近よく耳にします。そして議長が小さい芽を育てていくのが大切と言われたのは本当にその通りだと思います。 例えば上下に 1 回行ったら、次ここに行ってこれを食べてここに行ってこれを作ってここに行ってというところで、楽しいことがあるよということがないと滞在してもらえないというのを私は実際に旅行に行っていると思います。やはり 1 つだけ行って帰ってくるのではなくて、行ったらその場合に何をしようかと探す時と同じ状況になります。そこをどうやって、みんなで支援するのかというのと開業した後どうやって存続して根づいていくのかということ、強いては府中市全体が活性化することに繋がるのだらうと思いました。 1 つこれは言うて良いのかわかりませんが、府中市のオオムラサキはどうなっているのですか。ここはオオムラサキの町ですよ。大夢楽咲煌ちゃんも出てきましたし、何となく誰もオオムラサキのことがよく分からないですよ。もっと盛り上がっても良いのではないかと思います。食べ物 1 つでも、オオムラサキアイスクリームとかオオムラサキクッキーとか何でも良いですが、オオムラサキの何かがないととてももったいない気がします。
石川委員	大夢楽咲煌ちゃんの食べるところでは、店舗でパティスリーパンセさんとコラボして、パッケージに大

(商工)	夢楽咲煌ちゃんの絵がついた商品を開発されて売られています。多分これからどんどんそういうのが増えていきますかね。これは糸永委員も言われていたのですが、缶バッチのガチャが今観光協会の中であるのですが、とても売られています。10 種類ぐらいですかね、きらきら光るものもあります。袋買いで 60 個ぐらい買われる方も聞きました。県外から来られていたりしています。ちょっとした産業になっていますね。 小川委員に聞きたいことがあります。雇用の関係で働きたいのですが、よくりんごの木とか何か遠隔で自分の権利としてそれを取るということをやっていますが、それは市では無理なのですか。
小川委員 (農業)	やっていました。家族経営でオーナー制度というのをやっていたのですが、6 年続けてもう管理ができないぐらいの人数に膨れてしまったので、すみませんやめますという感じになりました。
石川委員 (商工)	そこでできなくなった人を、さっき働きたいような人が入ってくると良いですよ。
小川委員 (農業)	そうです。だから外部の人が入ってくださると、ここの牧場を使ってこれやりたい、あれやりたいと言っただけだと嬉しいのですが、なかなかそこまでとり着きにくいと言ったら良いですかね。個人の枠を出ていない牧場ですので、企業化していないところが入りにくいところなのかと思います。なんぼでも牛乳を販売しますので、チーズ工房なり、ソフトクリームなり、もうフラットミルクなり、何でもやりたいって方はどうぞなんですけど、そこまでは。 でも、近くに住みたいとか環境下には置きたいとかいう方は多いと思います。
高橋委員 (観光)	オオムラサキ関連なのですが、府中市内は結構和菓子もあります。だから和菓子、洋菓子それからレーザー堀の木のオオムラサキのコースターとか、いろんな商品があるのですが、なかなか 1 ヶ所で目に見えるところにすべてが揃っていないというのが課題なのかと思います。これから市の方でもいろんなオオムラサキグッズを作っていたいので、これも合わせてですね。
吉原委員 (保育)	何かこうインスタに載せてくださるとか、宣伝されないと本当に目につかないので。 残念ですよ。
高橋委員 (観光)	この辺はやはりこれからいろいろ目に見える形で広げていくというのは、大事なことはないかなと思います。育てるといふ。
沖田委員 (金融)	オオムラサキの実物を守るのはかなり大変ですね。管理者が高齢になられているみたいです。しかも、幼虫から盗まれてしまうのでどう守っていくのかという感じになります。
小川委員 (農業)	貴重なので、人間が取っていくらしいです。難しいですよ。ライバルは動物だけじゃないですね。 でも、すてきな蝶ですよ。牧場にも放蝶されていたときは、渡ってきていたのでよく写真を撮って、応援していました。
渡邊議長 (大学)	そういう意味ではビジネスの種になりそうなことをできると良いかもしれませんね。
○基本戦略 4	
事務局	(説明は省略)
小川委員 (農業)	フレイル予防から始まる健康関連で、地域の皆さんがそろって散歩をされるというプログラムをされていると思います。牧場の方にも来ていただいており、ごほうびと言ったら結局食べているのですが、頑張ったごほうびにソフトクリームを食べてもらうとか、あそこで食べたからここで食べるみたいに繋げてはいけないかもしれませんが、せっくなのでそういう活動をいろんなところでできたら

	と思います。この山に登ったらこれがあるとかこのエリアを歩いたらこれがある等、何かそういうオプションではないですが、特典付きみたいなシステム、スタンプラリーではないですが、ここをコンプリートしたらごほうびがあるという楽しみがある方が健康のために頑張らましようと言っても頑張れるのではないかと思います。私は何かごほうびがないと嫌ですよ。頑張ったからこれがあるとかみんなと一緒にやり遂げたという達成感をもっと刺激するようなプログラム、皆さんが子ども、お父さん、お母さんも含めて家族単位で遊べる方が全員の参加がしやすいのではないかと思います。
渡邊議長 (大学)	まさしく僕はマイクロツーリズムだと思います。フレイル×観光だとかあるいは CS×協働のまちづくりだとか、多分担当課が違って 1 個 1 個個別にやっているのですが、何かセットでプロジェクトをやるとうまく動くものは結構あるのではないかと思います。今日の話の中の協働のまちづくりはなかなか大変だと思いますし、僕も福山で担当したのでとても大変なのはわかるのですが、がっぷりそれを正面から取り組むとしんどいと思います。そうではなく例えば CS はとても頑張られているので、CS の中からコミュニティづくりに展開するとか、あるいは先ほど言った上下高校等、いろんな各展開があると思うので、何かプロジェクトを仕立てて一気にというか 1 つに統一ではないですが、そういうような仕掛け方であるのではないかと思います。今まさしくフレイルとお散歩の話で思いました。
岡村委員 (組合)	先ほど子どもの送迎が心配という話があったと思います。よく買い物に行くと、おじいちゃん、おばあちゃんたちで腰が曲がった方が一生懸命買い物されているのですが、そういうのとう抱き合わせでできないでしょうか。おじいちゃん、おばあちゃんたちは乗り合わせバスやタクシー等もあると思うのですが、どうやってそこに電話をして呼ぶ手段を持っているのかというのはとても気になっています。私たちは言ってもまだインターネットも何とか使える世代なので探せばいけるとは思いますが、交通の先からいろんなところに派生していく、ここだけの考えではないと思っています。子どもが安心して乗れる、そこでおばあちゃんとかもいて会話がはずみ、携帯の使い方を教えてあげるみたいな感じはどうでしょうか。少しテレビとかで見ましたが、高校生とか大学生のバイトが携帯をおじいちゃん、おばあちゃんに教えてあげ、話し方が勉強になる、そうすれば就活のときに面談に役に立つみたいな 3 世代交流じゃないですけど、交流ができれば良いと思います。さらに交通の便も良くなるとなれば良いと思います。変わってあげたいぐらいです。
渡邊議長 (大学)	まさしく交通もどちらかという根源的な目的があって、その目的を達成するために交通があるので、そういう意味では交通だけ考えても答えが出てこないというのが分かりきっていることなので、もうその通りだと思います。
石川委員 (商工)	地域共生のあり方というのが大事なのはみなさんの共通認識なのですが、地域の現場という言い方は変ですが、日中働いたり土日でも働いたりする方がおられる中で、この中でいうと防災活動であったり、いろんな地域活動があるのですが、議会でも町内会への加入が少ない、少なくなっている、減っているというような話があるのと同じで、アイスクリームをもらうではないですが、何かインセンティブがないとなかなか地域活動もできなくなっているというのが率直な感想です。これが進んでいくと、共助の部分が出来なくなってしまうので、自助と公助だけになると極端な話、そういう社会になるとなかなか生活もしにくくなります。それから冒頭吉原委員が言った「寄り添う」って意識がどんどんなくなっているの、1 つのことだけで地域共生と言われたら良くなるので良いのはありません。先ほど渡邊議長が言われたようにいろんなものがこう重なり合いながら構成されて

	いるので、今回カテゴリー別に評価や意見を言っていきますが、個別で解決しないものはたくさんある気がします。
○基本戦略 5	
事務局	(説明は省略)
渡邊議長 (大学)	話を聞いていると、インフラは整った、さあどうするみたいなところに来ているのかと思いました。
糸永委員 (報道)	全部出揃って、いろんな話を皆さんから伺っている中で府中市にこんな特徴があるのは多分言い尽くされていると思うのですが、すばらしい企業があってものづくりの町であって恋しきがあって、翁座があって、そして豊かな自然があります。それをどこでもあるようでないものに何か絞るか、むしろ縦串と横串と一緒にやっていくことが全体として必要なのではないかと感じられました。今日ジャストアイデアでも良いというのをおっしゃっていたので申し上げるのですが、例えばビジコンとか課題解決という言葉も出てきましたし、以前高橋委員から修学旅行、産業の観光という話がありましたが、地元の子どもたちが自分たちの地域にある企業のことを紹介したそうですね。そうすると紹介する方も誇らしい気持ちになり、紹介される方も何か実際に働いている人から聞くなり年が近いので、馴染んで話がスツと入ってくるみたいなのところがある等、そのような話を以前聞いたという記憶がありました。ものづくりのまち、そして上場企業もあるまちでビジコンを立ち上げるのも良いですし、もうすでにやっているビジコンを誘致するという形もあると思いますし、市が出すという以外にも資金の集め方はいろいろあると思います。ビジコンを例えば翁座でやるとか、そのパーティといますか、おもてなしを恋しきでやるとか、そういうときに大夢楽咲煌ちゃんのまちにこういうものがありますよとか、同じ人が集まるところに企業のブースを出すとか、何かこう 1 つのことをやるのではなくて、1 つのことをやるところにいろんなことが一緒に集まってくるような、そういうイベントの構築みたいなのも良いと思います。 私たちもマスコミとして何か発信するというのも、毎年やっています。第何回目というとなかなか取材に来づらいみたいなのところはあるのですが、何かこう目新しいものがあればすぐに飛びつくのではないかと感じています。
石川委員 (商工)	市がどうということではないですが、府中まで交通系 IC カードが使えるようにしてほしいです。もう先ほどインフラは整ったという話もありましたが、交通系 IC カード使えないというのは我々よく耳にすることなので、ぜひとも進めていただければと思います。
○まとめ	
渡邊議長 (大学)	今日はたくさん話題があり、なかなか難しいところもありました。まとめということではないですが、私の気づきぐらいの話をします。 基本戦略の 1 つ目のところは DX とかデジタルの話でした。話したようにデジタルは道具ですし、どう使うのかというのが各企業さんの持たれている課題やテーマ、例えば安全とか品質管理とか働き方改革とか時短だとかおそろくそういったその課題テーマがあるので、それに対してどういう工夫をされているのかという、そんな交流の場があって、そこでデジタルを使っているみたいな話で繋げるとデジタルの方に行きやすくなるのかと思います。DX でビジネスチャンス拡大というプロジェクト名もついていますけども、何かそこはそういうふうに感じました。 それから 2 つ目の子育ての話、僕は吉原委員が言っていた「寄り添い方施設」というのはそう思

	いますし、府中は CS だと思いますので、そういったコミュニティスクールというのは府中の武器だと非常に思うので、そこを 1 つ縦軸にした取組があるのではないかと思います。 一方で高校生たちの夜の自分の足の確保の問題だとか、出産とかそういった苦勞している方々もおられるので、そういった方に対してもどういうふうに対応していくのかというところは課題として引き続き残るので、みんなで知恵を出す必要があると思います。 そんな中、解決方策の 1 つとしてはいつも通りのことなのですが交流の機会を増やすということです。CS 等はやはり関わる人や機会が増えていくと思うので、そういうのを核として展開するというのは府中の強みを生かした展開としてあると思います。 それから基本戦略の 3 つ目のところでは、たくさんのプロジェクトがあってどういうふうに価値を作るのかという話だったのですが、やはり皆さんそうだねと言っていたのは、収益性ビジネスとしてどう成立させるのかところで大きな問題だと思います。別にボロクソ儲かるとかではなくても本当に生きていくだけの小さいさやかなスモールビジネスで僕は構わないと思うのですが、そういうものをいかに作り込んでいくのかということが大事かと思います。 例えば観光の世界はやはりどうやってリピーターを呼ぶのかとか、どうやってその周辺の人々、マイクロツーリズムと称してこよう来てもらうのか、さっきの散歩みたいなセットとかそういうのは本当にあると思います。いかに小さな芽をどう育てていくのかというのは、おそらくビジネスとしての成立の第一歩なのかと思います。私も専門でないので分かりませんが、何かそんなことを感じました。 それから 4 つ目のプロジェクトでは、先ほど糸永委員も言っておられましたが、いかに複数のいろいろなことを繋げるのか、あるいは府中をどうこだわるのかということが大事かと思います。もう大夢楽咲煌ちゃんで行くのであれば、それで徹底的にこだわるみたいな、なんかそういうのはプロジェクトの立て方としてあるのではないかと思います。 個人的にはビジコンの発表を翁座でやったらとても良いと思いますし、高校生の総合探求の時間等で高校連合の連合発表会を翁座でやるだとか、なんか非常に身の丈に合った使い方はあるのではないかと思いますので、是非ともそういうことを考えていただければと思います。
○副市長挨拶	評価・検証ということでしたが、皆様方から非常に前向きな意見、幅広い意見を伺えたと思っております。我々もこういった意見をもとに限られた予算ではありますが、選択と集中優先順位をつけて必ずこの基本戦略 5 本の柱で成果を出していきたいと思っております。 渡邊議長、最後にうまくまとめていただきましてありがとうございました。 今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 本日はありがとうございました。